

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4678000193 | | |
| 法人名 | 有限会社 徳寿苑 | | |
| 事業所名 | グループホーム 寿の家 | | |
| 所在地 | 鹿児島県熊毛郡中種子町牧川1680-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年9月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年 1月11日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---------------------------|
| 基本情報リンク先 | 県ホームページより |
|----------|---------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号 |
| 訪問調査日 | 平成23年10月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの職員については無資格でも可能ですが、職員採用が決まり次第当社でのホームヘルパー2級養成講座を受講し、初任研修を行う。又、入所希望者には、併設する有料老人ホームと連携しながら、在宅福祉に当社なりの「小さな福祉の積み重ね」を理念に、ニードに対して利用、相談に応じている。又、地域に置いてはコミュニティワークを常に考え、入所者が地域の存在として感じられるよう創意工夫している。日々のケアについても常に1~2名は多く勤務させ、きめ細かい援助サービスを行なう様心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな丘の中腹にあるグループホームはベランダより種子島の四季が一望できる。代表者の住居とホームの住居が同敷地内にあり、夜勤者には心強い支援である。ホーム主催の運動会、敬老会などに地域の方にも参加していただくことで交流を深め、近隣の方から野菜や魚の差し入れがあり、地域の一人としての交流が行われている。職員はケア理念「ゆっくり、いっしょに、楽しく」を支援し、入居者は広々とした共有空間の中で家族の雰囲気の中でゆったりと生活を送っている。入居者は重度の方も多く、職員の多く勤務でケアの質の向上を目指している。ホームヘルパー養成事業など地域の福祉向上に役立つを目標とされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念として、「近隣との触れ合いを大切に」を主に掲げ、行事や催し物に参加する為の情報収集、地域の方々が訪れやすい環境づくりをしている。 | 地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、新人教育、職員会議で理念の共有を図り意識しながら日々の業務につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域社会の運動会に参加したり、又、事業所のメイン行事に参加してもらうことで、地域の方々との交流に努めている。 | 代表者は地域の役員で、利用者は地域の運動会の参加、小中校の相撲大会などの見学、苑主催の敬老会、運動会に地域の方の出席があり交流をしている。魚・野菜などを届けに来てくださるなど、近隣と触れ合う機会がある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所内での行事等に老人会、民生委員、地域役員や地域の方々の参加を呼び掛け、事業所の説明、理解を求めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一回開催し、2,3か月に一回発行する事業所新聞から事業所での取り組みを説明、利用者の現況を報告している。 | 会議では利用状況や活動報告を行い、メンバーから地域行事の情報、防災夜間想定訓練、会議の出席者などの意見やアドバイスがあり、それらを向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 行政担当者と連絡をとり、事業所での行事に参加してもらうことで、利用者や施設の状況を見てもらう。 | 行政主催の研修会に参加している。事業所の行事の敬老会、運動会に行政の出席があり、利用者とケアサービスの取り組みを見ていただき連携を深めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設け、身体に危険のない限り拘束はしない方針で、職員の言動に一貫性を持たせている。 | 玄関は施錠せず開放されてケアしている。身体拘束、虐待をテーマに年1回資料をもとに研修を行っている。また、その都度気付きを話しあい、身体拘束をしないケアの取り組みをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 | | | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 年度 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--------------------------------------|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員会議やケース会議の中で、虐待の例を説明し、話し合いの場を持っている。 | | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 頁 No | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 事業者である徳寿苑が行う、ヘルパー養成講座を通して、職員全員が学ぶ機会を持つ。又、利用者の必要性に応じて制度を活用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前に見学や体験入所をもらった上で、不安や疑問点を聞き出し、それに対してどう対応するかの説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置している。 又、苦情窓口があり、担当者も決めている。 | 2か月に1回「ことぶき便り」を送付している。家族とは面会時、電話など常に聞く姿勢で接している。出された意見は、申し送りや職員会議で話し合い、反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1～2回の職員会議やなんでもノートにて、職員から提案を聞き、反映させている。 | 職員会議やなんでもノートで職員の意見や勤務時間、外出支援などの職員の意見や提案は、管理者や代表者の承諾の下反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員にやりがいをもたせるべく、独自の評価基準を設け、給与、待遇面に考慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年1回の法人外での研修を義務付けし、行っている。又、法人内では、OJT研修を行っている。研修後、知識の共有化を図るため勉強会を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人外の研修参加、勉強会を通じて、交流している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 家族、ケアマネージャーとの情報交換を行い、家族、本人に訪問してもらい、十分な説明をした上で本人の希望を聞き、話し合いをしながら進めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 在宅での家族の困り事を聞き、潜在的なニーズの発掘を行い、来苑しやすい環境などを考慮しながら、十分な話し合いを進めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 個別に対応し、必要であれば介護保険外のサービス等も、説明し、実施している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護やレクリエーションを通して個々の性格、興味を把握、残存機能を活かしたコミュニケーションを行い、職員との信頼関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 常に連絡を取り、時には家族の悩み等を聞いて、一緒に利用者を支えるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方には、気軽に訪問してもらうように伝えている。又、ドライブなどで利用者との関係のある場所に立ち寄ったりと支援を行っている。 | 利用者の馴染みの人や、場所について把握している。知人が気軽に面会できる工夫や、ドライブで関係のある場所に立ち寄り、知人との交流を持つなど、関係継続の支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 基本的なコミュニケーションを職員がサポートし、食事やレクリエーションを全員で楽しむように努めている。 | | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 医療機関への移行など、状況把握のために機会を通じて訪問している。又、施設への入所については細かく情報を提供している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望や意向を聞き出し、アセスメントしている。意思疎通が困難な利用者については、家族の意向を聞き、対応している。 | 日々のケアで、利用者の様子の変化を気付いた場合は声をかけ、思いや意向の把握に努め、把握したことは介護記録に記載している。意思疎通困難な方は、ご家族から情報を得ている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の話などにより、利用者の生活環境やこれまでのサービス内容を聞き、把握した上で今後のケアに活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の状態や、心身状態をケース会議を通して把握し、医療機関や家族との連携を図りながら支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族を含めた担当者会議を行い、介護計画に反映させ、安定している入所者にあっても、小さな変化によってモニタリングを活かした計画作成に努めている。 | 利用者の意向や希望、家族の意向、職員の意見や記録日誌や生活リズム帳を参考にし、現状に即した介護計画を作成している。変化時はモニタリングしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録日誌、生活リズム表、なんでもノート等を用い、個々の状態を把握し、情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | グループホームでのデイサービスや、ショートステイを、要望に応じて活かしている。 | | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域社会で快適に生活してもらえる様に、各機関の各行事を通じて必要な地域資源の協力を受けながら対応している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望を受け入れつつ、かかりつけ医の指導のもと、安定した日常生活を送れるように支援している。 | 本人・家族の希望するかかりつけ医で、家族や職員同行が受診ノートを持参し受診する。内服薬や主治医の指導等を記載する。受診後は申し送りを行い、情報の共有を図り、適切な医療支援ができるようにしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化や怪我等を、常に看護師の協力をあおぎながら、健康管理に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の状態を、早期に病院に提供し、入院中の身の回りの世話しながら、病院関係者との情報交換を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化、終末期の指針を設け、家族に予め説明し、重度化してきた時点で、本人、家族や、かかりつけ医等と意見交換をして、全員でケアの方針の共有に取り組んでいる。 | 看取り、終末期の指針が作成され、今までに看取りの経験もある。看取りの研修会に参加後は、報告を行っている。主治医の指導で、職員全員が吸引ができる。重度化した場合は、職員間・家族・主治医等と意見交換し、方針を決め共有しながら支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルをいつでも観覧できるようにしている。定期的に看護師や管理者より、利用者に応じた対応を学んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回防災避難訓練を、行っている。 連絡網および、行動手順を作成し、災害時には速やかに対応できるようにしている。又、防災グッズの確保も行っている。 | 緊急連絡網やマニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得ながら利用者とともに防災避難訓練を実施している。5月の訓練は通報、消火、避難訓練を行っている。 | 火災の昼夜、火元の想定、地震、風水害などあらゆる災害の想定で自主訓練や研修を行い、スタッフが自信を持って誘導できる備えを望みます。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 秘密保持、人格の尊重など勉強会を開いている。また、個人情報保護の誓約書を就業時に書面にて作成している。 | 管理者は、職員の日常の言葉かけについて、気付いた点を注意している。認知症などの研修後は、職員会議で報告し、それらを活用しながら職員の育成を図っている。記録物の管理は徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々のレベルに合わせた説明を行い、理解して行動出来るように支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 健康的な生活リズムを壊さない範囲で、一人ひとりの希望を尊重しながら充実した生活を送れるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理美容については本人、家族の希望により、施設内にて対応している。 ブラシで髪をといたり、服を自分で選んだりできる様に支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 郷土料理や季節料理を、献立に取り入れる工夫をし、食材の下ごしらえを一緒にしながら、料理や材料の説明をし、雰囲気を楽しんでいる。 | 食器・箸等は利用者が持参し、食事の下ごしらえを職員と一緒に行う。職員は、声かけ見守り等を食事に行う。後片づけは、3人の利用者がエプロンを着け手伝い、アットホームな雰囲気である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重や消費カロリーに合わせて、食事の量を設定している。水分補給については、個々の好みに合わせて工夫し、水分量については、IN、OUTをチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時と、毎食後に実施している。 一人ひとりの能力に応じて自分でしてもらい、仕上げは職員がケアしている。 | | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握して、出来るだけトイレで排泄出来るに、リズム表を作成し活用している。 | 一人一人の排泄記録で排泄パターンの把握をしている。オムツの人も昼間は下着にパットを着用、また、夜間2時間ごとにトイレ誘導し、オムツ着用が解消するなど、職員は排泄パターンを活かしながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘による発熱やイライラを理解し、病院からの処方薬と、水分量や食事の工夫をし、及び、体を動かすレクリエーション、ゲーム、体操を取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 夏場は毎日入浴出来る体制にし、冬場は一日置き体制で、希望に沿えるように支援している。 | 入浴したい日、時間に合わせて入浴していただいている。入浴を嫌がる人には、職員が声かけ等で、安心感を持って入浴してもらう工夫をしている。車椅子の方も、体に負担をかけない入浴を楽しむことができる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣や年齢、体調に応じて対応し、又、部屋の環境を整え、安心出来るようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師から出された薬の説明書を、薬の保管場所のよこに掲示して見れる様にしている。又、用法ごとに薬入れに分別している。症状の変化等については、定期健診で、医師の指示を仰いでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や趣味を把握した中で料理の下ごしらえや洗濯物畳み等を行い、役割、楽しみに結び付けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 意思表示できる利用者が少ないので、利用者の思いを職員がくみ取り、外出を支援している。 | 毎月季節の花の観賞に出かけるほか、地域行事への参加やドライブに出かけている。神社へ初詣、ロケット発射見学、温泉保養所へ一日遠足など、積極的に外出の支援を行っている。車いすで外気浴をしたり、散歩に出かける等の支援している。 | |

鹿児島県 グループホーム寿の家

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員会議の中で話し合いを持っている。 利用者については、家族と話し合い、本人の理解の範囲内で所持、使用している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人希望により、電話をかけることの支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホール内の清潔感はもちろん、空間の構造や、設置器具に配慮し、絵画や、レクリエーションや行事の写真、手作りの飾り等で、親しみの湧く空間作りに努めている。 | 建物の周囲には季節の花が植えられ、ホーム内は絵画や、折り紙で作った季節の花が飾られており、季節感を感じることができる。玄関にはベンチも設置され、広々とした共有空間では、気のあった方々と話をしたり、くつろいだり思い思いに過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人ひとりの居場所が大体決まっており、ソファや椅子など個々の体の機能により配慮して、くつろげる様にしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の使いなれた家具や日用品を設置し、室内に自分と家族の写真を飾ったり、職員と一緒に作った作品を飾り、個々の趣味に合わせて趣向をこらしている。 | 和室と洋室がある。家から馴染みのベッド・テレビ・写真・時計・ぬいぐるみ・衣装ケース・三味線などを持ち込み、住み慣れた部屋になっている。工作などの作品や、書道も個々の工夫で飾りつけている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーと、全廊下に手すり設置し、自力歩行の安全を確保して又、廊下も広く、車いすや押し車の移動も安全にできる。 | | |